

## パフォーマンス後に快／不快感情を喚起する 情意的フィードバックメッセージ

石倉 忠夫<sup>1</sup>, 藤本 愛子<sup>2</sup>

### Will feedback messages after performance of an activity evoke positive/negative emotion in learners?

Tadao Ishikura<sup>1</sup>, Aiko Fujimoto<sup>2</sup>

This study aimed to investigate whether feedback messages on motor skill learning evoke positive/negative emotion in learners when they successfully or unsuccessfully performed an activity. Study participants were 111 undergraduates who were requested to freely describe how they felt (positive/negative emotion) after receiving feedback messages from their teacher or instructor when they performed successfully or unsuccessfully in a sports activity or physical education class. The results showed 25 pleasant and 24 unpleasant messages when students performed successfully, and 25 pleasant and 31 unpleasant messages when they performed unsuccessfully. Then, 164 undergraduates were requested to identify how they felt (i.e., pleasant/unpleasant) about each feedback message from their teacher/instructor when they performed successfully or unsuccessfully on the motor skill learning tasks/activities. The results of factor analysis showed 7 positive-emotion evoking messages but 11 negative-emotion evoking ones when students performed the activity successfully. Additionally, 13 pleasant and 15 unpleasant messages were noted when they performed it unsuccessfully. These results indicate the possibility that feedback messages evoke positive/negative emotion in learners during motor skill learning, and highlighted some items for consideration in future research.

**[Keywords]** positive/negative emotion, feedback message, motor skill learning

本研究は運動技能の学習において成功あるいは失敗時に学習者の快／不快感情を喚起する情意的フィードバックメッセージを明らかにすることを目的とした。始めに111名の大学生を対象に、体育の授業やスポーツ活動で成功した時の指導者からの快／不快に感じるメッセージ、失敗した時の指導者からの快／不快に感じるメッセージについて自由記述を求めた。成功時の快メッセージが25項目、成功時の不快メッセージが24項目、失敗時の快メッセージが25項目、そして失敗時の不快メッセージが31項目集計された。次に、164名の大学生(男性101名、女性62名、不明1名)を対象に、成功した場合あるいは失敗した場合を想定し、それぞれの項目について快あるいは不快に感じる程度を評価させた。因子分析の結果、成功時に快感情を引き起こす7つのメッセージと不快感情を引き起こす11メッセージが、失敗時に快感情を引き起こす13メッセージと不快感情を引き起こす15メッセージが抽出された。以上の結果から、運動技能学習時に学習者の快／不快感情を喚起する可能性のある情意的フィードバックメッセージが明らかにされ、いくつかの検討課題が指摘された。

**[キーワード]** 快／不快感情、フィードバックメッセージ、運動技能学習

#### I. 緒言

2020年東京オリンピック開催が決定し、国民とスポーツの関わり方が大きく変わろうとしている。この大会が目指す“多くの国民がスポーツに親しむ社会”

を構築するには、スポーツに対する良好な態度を育成することが肝要になる。その一助として指導者の実施者に対する接し方が上げられる。

スポーツ指導の多くの教本では、「スポーツ実施者の主体性を重視し、その姿勢や意欲を強化するために

1 同志社大学スポーツ健康科学部 (Faculty of Health and Sports Science, Doshisha University)

2 同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程 (Graduate school of Health and Sports Science, Doshisha University)

励ましや賞賛を多く取り入れること」と記述されている(例えばマートン, 1991)。つまり, 指導者の励ましや賞賛が実施者の快感情を喚起し, 活動への動機づけが期待できるということである。しかしながら, 「どのような励ましや賞賛の言葉が有効なのか?」という疑問が残る。例えば西谷・松田(2008)は, 学習に対するフィードバックについてこれまでの研究を概観し, 外国語学習者の言語不安と自尊感情を制御して動機づけを高めるフィードバックメッセージを確定するための調査を行った。その結果, 激励, 叱咤, 賞賛のフィードバックメッセージを与えられた時, 不安と自尊傾向によって動機づけが異なることを報告している。また, Aliyev et al. (2013) が教師の言明(言語刺激)が小学生児童の感情面(20感情:Panas scale)に及ぼす影響について検討したところ, 屈辱, 侮辱, 非難, そして威嚇を含む教師の言明は, 児童のネガティブ感情を生起させ, 賛辞, 賞賛そして激励を含む言明は生徒のポジティブ感情を生起させたことを報告している。つまり指導者や教師の言明は学習者の感情面に影響し, 不安傾向や自尊傾向のような学習者のパーソナリティを媒介変数として, 動機づけは指導者から発せられるメッセージによって影響を受けるといえる。

Holt et al. (2008) は競技的ユーススポーツにおける親の関与を検討し, 子どものパフォーマンスに関する親の言語的反応はサポート的なコメントから子供をコントロールするコメントへ変化したことを明らかにしている。つまり初めのうちは, 親は子供のスポーツ活動に対して言葉の反応として賞賛/励ましやパフォーマンスに依存したフィードバックのようにサポート的に関与するが, 次第に軽蔑的なコメントやネガティブなコメントなどを用いて子供をコントロールするようになるということである。親のコメント内容や感情の変化は, 子供への共感や感情の強さ, そしてスポーツに関する知識や経験の知覚など状況に対する親の知覚に依存することが明らかにされた。

Sugawara et al. (2012) は運動スキル記憶時の強化における賞賛の効果について着目し, 系列的指タッピング課題の練習で与えられる賞賛が直接的にスキル強化を促進するという仮説を検討している。被験者はトレーニング直後に彼らのトレーニングパフォーマンスの賞賛を受ける, 他の被験者のパフォーマンスの賞賛を受ける, または賞賛なしの3つグループのいずれかに分けられた。被験者自身のパフォーマンスの賞賛を受けた条件は, 学習された系列の突然の再生テストを遂行したときに, 他の条件と比較してパフォーマンスが有意に高かった。しかし新規な系列でランダムな順序のタッピングを行かせたところ, 3つのグループ間

でパフォーマンスの有意な差は示さなかった。これらの結果は, 運動スキル記憶における賞賛による向上は練習時というよりは, むしろ練習が行われていない時期にみられることを示している。

これらの報告から, 体育やスポーツ活動における指導者から与えられる成功時あるいは失敗時のフィードバックメッセージは学習者の快/不快感情を喚起し, 運動技能の学習や動機づけに影響を及ぼすといえよう。そこで本研究は, 成功時あるいは失敗時に学習者の快/不快感情を喚起する指導者からの情意的フィードバックメッセージをアンケート調査にて明らかにすることを目的とした。

## II. 方法

### (1) 予備調査

#### ①目的

体育実技時やスポーツ活動時に指導者から与えられる快/不快メッセージを自由記述にて収集する。

#### ②被調査者

A 大学学部生 111 名(男性 68 名, 女性 43 名)を調査対象者とした。

#### ③質問項目

調査は教室における授業時に研究趣旨を説明して同意を得た上で回答させた。その際, 調査対象者には体育実技時やスポーツ活動時を想定させ, 次にあげる質問項目に対しそれぞれ5つのメッセージの記述を求めた(資料1参照)。

- ・成功した時に快く感じる指導者からのメッセージ
- ・成功した時に不快に感じる指導者からのメッセージ
- ・失敗した時に快く感じる指導者からのメッセージ
- ・失敗した時に不快に感じる指導者からのメッセージ

#### ④集計方法

A 大学スポーツ健康科学部スポーツ心理学ゼミの学生 12 名が集計を行った。

#### ⑤結果

集計を行った結果をまとめたのが表1である。1または2名のみ上げたメッセージは除外した。結果として「成功した時に快く感じる指導者からのメッセージ」は25項目, 「成功した時に不快に感じる指導者からのメッセージ」は24項目, 「失敗した時に快く感じる指導者からのメッセージ」は25項目, そして「失敗した時に不快に感じる指導者からのメッセージ」では31項目が示された。

### (2) 本調査

#### ①目的

予備調査で示された成功時あるいは失敗時に快/不

表1 予備調査で得られた快／不快感情喚起メッセージ

成功時の快感情喚起メッセージ		成功時の不快感情喚起メッセージ	
項目	個数	項目	個数
よくやった	63	できて当たり前だ	40
その調子で頑張ろう	29	たまたまできた	29
うまくなった	26	まだまだできていない	27
おめでとう	25	やっとできるようになったか	19
ナイスプレー	21	その程度で喜ぶな	18
素晴らしい	19	調子に乗るな	16
練習の成果がでたな	14	誰でもできている	16
やればできる	10	もっと頑張れ	14
さすが	10	時間かかったな	9
努力が実ったね	8	意外	9
上手だね	8	他の人はもっとできている	9
お疲れ様	8	まあまあだね	9
今の良かった	7	そんなものか	8
いい感じになったね	7	全然だ	7
期待してるぞ	6	試合でできないと意味ないよ	7
できるようになると思った	6	俺の言ったとおりだろ	6
いいね	6	運がよかったね	6
才能があるね	6	お前の力ではない	5
もっとこうしたら良くなるよ	6	君にしては出来た	5
もっとできるよ	5	へたくそ	4
もう一段階上を目指して頑張ろう	5	甘い	3
成長した	5	先生のおかげだ	3
良かったよ	4	次も頑張れ	3
できている	4	ふつう	3
カッコいい	3		
失敗時の快感情喚起メッセージ		失敗時の不快感情喚起メッセージ	
項目	個数	項目	個数
次がある	30	やめてしまえ	24
あともうちょっと	26	向いていない	19
君ならできる	24	下手	19
大丈夫。自信を持って	17	ダメだ	18
気にするな	13	なぜできないのか	17
失敗は必要	11	無理だ	16
いい感じ	11	練習不足	16
頑張っていたよ	11	もっとしっかりやれ	15
ナイスチャレンジ	10	誰でもできる	12
練習!	10	やっぱり	12
だいぶ上手くなっている	8	帰れ	9
あきらめないで	8	やる気がない	8
切り替えよう	8	こんなことできないのか	8
もうちょっと頑張ろう	7	上手くならない	5
違う方法を一緒に考えよう	7	努力してるのか?	5
ミスは誰でもある	7	使えない	5
一緒に頑張ろう	6	わかってない	4
調子が悪い時もある	5	失敗すると思っていた	4
もう一度	5	しょうがない	4
役に立つ	4	できるはずがない	4
まだできることがある	4	もういい	4
次は出来る	3	何回失敗するんだ	4
失敗して気づくことあるよ	3	今まで何やってたの?	3
失敗を繰り返して強くなる	3	終わっている	3
ここからだ	3	無駄だ	3
		運が悪かったねー	3
		ふざけるな	3
		ドンマイ	3
		アホか!	3
		何回も言わせるな	3
		次はないぞ	3

快に感じるメッセージ間の関連性について検討する。

#### ②被調査者

A 大学学部学生 164 名（男性 101 名，女性 62 名，不明 1 名）を調査対象者とした。

#### ③調査項目

調査は教室における授業時に実施した。その際，調査対象者には体育実技やスポーツ活動において成功した時または失敗した時のそれぞれにおいて指導者からかけられるメッセージであることを想定させ，快から不快までの 5 件法（「快い」「やや快い」「どちらともいえない」「やや不快」「不快」）で回答を求めた。成功時のメッセージには予備調査で得られたメッセージ 49 項目（「成功した時に快く感じる指導者からのメッセージ」25 項目，「成功した時に不快に感じる指導者からのメッセージ」24 項目），そして失敗時のメッセージは 56 項目（「失敗した時に快く感じる指導者からのメッセージ」25 項目，「失敗した時に不快に感じる指導者からのメッセージ」31 項目）が取り上げられた（資料 2 参照）。

#### ④分析方法

IBM 社製 SPSS ver.21 を用いて，主因子法による因子分析を用いた。

### Ⅲ. 結果

#### (1) 成功時のメッセージについて

主因子法による初期の固有値を検討したところ，第 2 因子と第 3 因子の固有値の差が 2.88 で大きかったため，2 つの因子に決定した（表 2）。累積寄与率は 27.19% であった。次に，バリマックス回転後の因子行列を検討し，因子負荷量の値 .40 以上の項目を絞って各因子に含まれている項目を確認した（表 3）。第 1 因子には「全然だ」「できて当たり前だ」「お前の力ではない」「他の人はもっとできている」「へたくそ」「甘い」「たまたまできた」「試合でできないと意味ないよ」「時間がかかったな」「誰でもできている」「まあまあだね」と成功時に不快を感じさせるメッセージが含ま

れているため，成功時不快メッセージ（11 メッセージ）とした。

一方，第 2 因子には「その調子で頑張ろう」「成長した」「できている」「いい感じになったね」「よくやった」「努力が実ったね」「良かったよ」と成功時に快を感じさせるメッセージが含まれるため，成功時快メッセージ（7 メッセージ）とした。

内的整合性を検討するためにクロンバックの  $\alpha$  係数を求めたところ，第 1 因子では .87，第 2 因子は .84 であった。

#### (2) 失敗時のメッセージについて

主因子法による初期の固有値を検討したところ，第 2 因子と第 3 因子の固有値の差が 2.27 で大きかったため，2 つの因子に決定した（表 4）。累積寄与率は 27.63% であった。次に，バリマックス回転後の因子行列を検討し，因子負荷量の値 .40 以上の項目を絞って各因子に含まれている項目を確認した（表 5）。第 1 因子には「もういい」「できるはずがない」「ふざけるな」「今まで何やってたの?」「やめてしまえ」「努力しているの?」「帰れ」「下手」「アホか?」「こんなことできないのか」「やっぱり」「わかってない」「やる気がない」「誰でもできる」「次はないぞ」といった失敗時に不快にさせるメッセージが含まれていることから，失敗時不快メッセージ（15 メッセージ）とした。第 2 因子では「次がある」「失敗を繰り返して強くなる」「失敗して気づくことあるよ」「君ならできる」「失敗は必要」「一緒に頑張ろう」「あきらめないで」「ここからだ」「あともうちょっと」「もう一度」「次は出来る」「まだできることがある」「調子が悪い時もある」といった失敗時に快感情を与えるメッセージで構成されていた。第 2 因子を失敗時快メッセージ（13 メッセージ）とした。

内的整合性を検討するためにクロンバックの  $\alpha$  係数を求めたところ，第 1 因子では .90，第 2 因子は .88 であった。

表 2 各因子における固有値（成功時のメッセージ）

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	6.890	22.225	22.225	6.414	20.690	20.690	4.953	15.977	15.977
2	5.140	16.581	38.806	4.646	14.988	35.678	3.476	11.212	27.189
3	2.258	7.282	46.089	1.788	5.768	41.446	2.804	9.045	36.233
4	1.328	4.285	50.374	.880	2.840	44.285	1.538	4.961	41.194
5	1.267	4.087	54.460	.768	2.479	46.764	1.446	4.665	45.860
6	1.055	3.403	57.863	.590	1.904	48.668	.757	2.441	48.300

表3 バリマックス回転後の因子行列とメッセージ（成功時のメッセージ）

項目	因子						メッセージ
	1	2	3	4	5	6	
S17	.783	-.116	-.186	.028	-.059	-.029	全然だ
S26	.738	-.061	-.055	.007	.086	.005	できて当たり前だ
S36	.682	-.200	.106	-.223	-.011	.197	お前の力ではない
S30	.650	.055	-.031	-.028	.045	.149	他の人はもっとできている
S27	.630	-.294	-.066	.090	-.006	.001	へたくそ
S42	.602	-.127	-.063	-.015	-.084	.041	甘い
S19	.574	-.064	.178	-.279	.031	.076	たまたまできた
S15	.558	-.009	-.104	.077	.228	-.221	試合でできないと意味ないよ
S35	.548	.126	.070	-.012	.018	.106	時間かかったな
S01	.541	.095	-.049	-.064	-.094	-.046	誰でもできている
S23	.505	.064	-.078	-.114	.192	.182	まあまあだね
S44	-.102	.689	.210	.102	.142	.061	その調子で頑張ろう
S22	-.092	.678	.225	.218	.134	-.055	成長した
S21	.115	.625	.187	.153	.095	.011	できている
S43	.028	.616	.193	.126	.100	-.024	いい感じになったね
S24	-.002	.548	.217	.103	.206	.085	よくやった
S48	-.214	.459	.286	.250	.107	-.032	努力が実ったね
S14	-.077	.455	.293	.226	.106	-.259	良かったよ
S40	-.055	.159	.739	.179	.051	-.130	さすが
S33	-.051	.217	.706	.166	-.030	.170	才能があるね
S25	-.103	.314	.605	-.060	.040	-.104	かっこいい
S02	.070	.340	.513	-.086	.025	.149	上手だね
S34	-.227	.331	.483	.252	-.102	.058	素晴らしい
S47	.154	.234	.465	-.047	.181	-.183	お疲れ様
S37	-.179	.261	.106	.687	.042	.083	練習の成果がでたな
S38	-.107	.233	.025	.527	.209	-.036	もう一段階上を目指して頑張ろう
S20	.219	.300	.118	.445	.133	-.037	もっとできるよ
S10	.014	.284	.081	.171	.751	-.018	次も頑張れ
S09	.162	.333	.003	.127	.704	.030	もっと頑張れ
S28	.468	.029	-.043	.056	.031	.618	ふつう

表4 各因子における固有値（失敗時のメッセージ）

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
1	9.925	24.208	24.208	9.475	23.109	23.109	6.002	14.638	14.638
2	4.744	11.571	35.780	4.263	10.397	33.506	5.327	12.992	27.630
3	2.472	6.030	41.810	1.983	4.835	38.342	1.882	4.589	32.220
4	1.589	3.876	45.686	1.110	2.708	41.050	1.690	4.122	36.342
5	1.498	3.654	49.341	1.010	2.464	43.514	1.576	3.844	40.186
6	1.197	2.921	52.261	.739	1.803	45.317	1.399	3.413	43.599
7	1.183	2.885	55.147	.713	1.739	47.056	1.105	2.696	46.295

表5 バリマックス回転後の因子行列とメッセージ（失敗時のメッセージ）

項目	因子							メッセージ
	1	2	3	4	5	6	7	
F46	.740	-.055	-.093	-.059	.146	-.094	.010	もういい
F47	.722	-.134	.083	-.021	-.045	.056	.018	できるはずがない
F36	.681	-.132	.126	-.042	.097	.008	-.051	ふざけるな
F32	.667	-.070	.075	-.028	-.069	.082	.148	今まで何やってたの？
F54	.623	-.213	.205	.055	.003	.053	.029	やめてしまえ
F44	.566	-.062	.190	-.083	.033	-.016	.548	努力してるのか？
F56	.566	-.054	.056	-.138	.092	-.099	.278	帰れ
F41	.553	-.201	.209	-.171	.279	-.061	.079	下手
F38	.543	-.107	.241	-.064	.044	-.149	.156	アホか！
F42	.541	-.197	.230	-.063	.319	-.008	.108	こんなことできないのか
F52	.539	-.257	.206	-.032	.190	.145	-.129	やっぱり
F22	.536	-.067	.120	-.201	.110	.041	.128	わかってない
F30	.482	-.130	.229	-.065	.153	.083	.027	やる気がない
F37	.463	-.105	.281	-.059	.212	.103	-.054	誰でもできる
F09	.421	.096	.003	-.042	.137	-.028	.205	次はないぞ
F51	-.199	.749	.111	-.015	.090	.151	-.071	次がある
F24	-.013	.679	-.115	.088	-.129	.031	-.143	失敗を繰り返して強くなる
F31	-.092	.676	-.044	.239	.018	-.177	.179	失敗して気づくことあるよ
F21	-.238	.617	-.060	.149	-.115	.082	-.129	君ならできる
F50	-.061	.616	-.107	.102	.052	.149	.168	失敗は必要
F11	-.169	.582	-.113	.137	-.159	.172	-.026	一緒に頑張ろう
F15	-.047	.582	.004	.149	-.148	.027	.052	あきらめないで
F05	-.063	.577	-.102	.140	-.110	-.243	-.087	ここからだ
F53	-.092	.551	-.003	.043	-.005	.027	-.013	あともうちょっと
F43	-.052	.542	.013	.143	.003	-.324	.099	もう一度
F08	-.244	.501	-.051	.127	-.119	-.003	.018	次は出来る
F12	-.017	.481	-.065	.143	-.086	.030	.068	まだできることがある
F48	-.106	.443	.021	-.038	.051	.224	.148	調子が悪い時もある
F17	.363	-.022	.675	.020	.187	.101	-.082	失敗すると思っていた
F18	.447	-.008	.638	.088	.151	.069	.058	向いていない
F19	.296	-.178	.608	.031	.184	.117	.139	終わっている
F26	-.117	.373	-.047	.641	.018	.072	-.114	だいぶ上手くなっている
F13	-.065	.234	.073	.613	-.036	.137	-.028	いい感じ
F33	-.243	.318	-.061	.540	-.113	.094	-.114	ナイスチャレンジ
F03	.289	-.113	.154	.048	.691	.056	.030	上手くならない
F02	.239	-.163	.247	.022	.661	.173	.126	無理だ
F23	-.004	.121	.058	.019	.039	.688	-.120	運が悪かったねー
F10	.061	.033	.056	.124	.038	.539	.135	しょうがない
F55	.159	.141	.003	-.127	.082	-.021	.566	練習不足

#### IV. 考察

本研究は体育やスポーツ活動において成功時あるいは失敗時に指導者から受ける快／不快に感じる情意的フィードバックメッセージを明らかにすることを目的

とした。まず予備調査では、成功時あるいは失敗時を想定したときに快／不快に感じる指導者からのメッセージを自由記述によって収集した。その結果、成功時には25項目の快感情を喚起するメッセージ、24項目の不快感情を喚起するメッセージ、失敗時には25

項目の快感情を喚起するメッセージ、31項目の不快感情を喚起するメッセージが得られた。次に、予備調査で得られたメッセージについて、成功時あるいは失敗時のそれぞれの場面でどの程度快あるいは不快を感じるかについて尋ね、因子分析を用いてメッセージ間の関連性を検討した。その結果、成功時に快感情を喚起するメッセージが7項目、不快感情を喚起するメッセージが11項目、失敗時に快感情を喚起するメッセージが13項目、不快感情を喚起するメッセージが15項目抽出された。

西谷・松田 (2008), Aliyev et al. (2013), Holt et al. (2008) そして Sugawara et al. (2012) は、ポジティブな感情あるいはネガティブな感情を喚起する言葉の分類を賞賛、励まし、激励、叱咤などのように分類しているが、本研究ではアンケート調査による回答を基に因子分析を行い、快感情／不快感情を喚起する情動フィードバックメッセージを明らかにした。学習者のパーソナリティーが動機づけの媒介変数として関与することが西谷・松田 (2008), Aliyev et al. (2013) によって報告されていることから、本研究で明らかにされた情動フィードバックメッセージを受け取った時の気分の変化や生理的反応を測定し、情動的フィードバックメッセージが心理面に及ぼす影響についてパーソナリティーとの関連性について検討する余地が残されている。

さらに、Vast et al. (2010) はスポーツ競技中のポジティブな感情（興奮、幸福）は集中や自動的な動作に関連することを報告しているため、学習時に与えられる快感情を喚起するメッセージは運動学習を促進すると仮定できる。そのため運動学習課題を用い、学習課題を成功したときに学習者に快または不快感情を喚起する情動的フィードバックメッセージを与えたときの、運動学習に及ぼす影響を検討する課題が残される。

また、本研究の結果は知覚・認知と運動行動における無意識性・潜在性のメカニズムについて明らかにする一助になると考えられる。例えば、情動的フィードバックメッセージを表現する写真・イラストまたは言葉を、ヒトが認識できる或いはできない非常に短時間（例えば 150msec）で視覚提示すると無意識的フィードバックになる。この無意識的フィードバックによる運動学習の促進効果の観点から、運動行動における無意識的・潜在的特徴に関与する知見を得ていく方向性も考えられる。

## V. 結論

本研究は体育やスポーツ活動において成功時あるいは失敗時に指導者から受ける快／不快に感じる情動的フィードバックメッセージを明らかにすることを目的とした。その結果、成功時に快感情を喚起するメッセージが7項目、不快感情を喚起するメッセージが11項目、失敗時に快感情を喚起するメッセージが13項目、不快感情を喚起するメッセージが15項目抽出された。

これらの情動的フィードバックメッセージが動機づけに及ぼす影響や運動技能学習へ及ぼす影響について、対象となる課題の特殊性を考慮し、検討の余地が指摘されるが、スポーツ・体育をはじめ、リハビリテーションなどの運動・技術の指導場面への応用への可能性がある。また、チームメイトや観戦者のプレイに対する反応（ため息や声援など）が選手の心理面に及ぼすメカニズムを明らかにし、その対策を講じ、あるいは観戦者教育に応用することも可能になろう。

**付記** 本研究では同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程を修了した狩野隆氏と伊藤佑夏氏の協力を得た。ここに感謝の意を表す。

## 参考文献

- Aliyev, R., Karakus, M. & Ulus, H.: Teachers' Verbal Cues That Cause Students to Feel Various Emotions. *Anthropologist*, 16 (1-2), 263-272, 2013.
- Holt, N.L., Tamminen, K.A., Black, D.E., Sehn, Z.L., Wall, M.P.: Parental involvement in competitive youth sport settings. *Psychology of Sport and Exercise*, 9, 663-685, 2008.
- R・マートン著, 猪俣公宏監訳: コーチング・マニュアルメンタルトレーニング. 大修館書店, 1991.
- 西谷まり・松田稔樹: 外国語学習者の言語不安を制御するフィードバック. *一橋大学留学生センター紀要*, 11, 35-46, 2008.
- 大平英樹編: 感情心理学・入門. 有斐閣アルマ, 2013.
- Sugawara, S.K., Tanaka, S., Okazaki, S., Watanabe, K., Sadato, N.: Social Rewards Enhance Offline Improvements in Motor Skill. *PLOS ONE*, 7 (11), e48174, 2012.
- Vast, R.L., Young, R.L. & Thomas, P.R.: Emotion in sport: Perceived effects on attention, concentration, and performance. *Australian Psychologist*, 45 (2), 132-140, 2010.

## 資料 1

今、あなたは**体育の授業**や**スポーツ活動**で何か新しい技術を習得するために練習をしています。

問 1. **成功**したとします。先生や指導者からどのようなメッセージをかけられたら**快**いと感じますか？  
5つ上げてください。

- 
- 
- 
- 
- 

問 2. **成功**したとします。先生や指導者からどのようなメッセージをかけられたら**不快**と感じますか？  
5つ上げてください。

- ◇
- ◇
- ◇
- ◇
- ◇

問3. **失敗**したとします。先生や指導者からどのようなメッセージをかけられたら快いと感じますか？  
5つ上げてください。

◆

◆

◆

◆

◆

問4. **失敗**したとします。先生や指導者からどのようなメッセージをかけられたら不快に感じますか？  
5つ上げてください。

✓

✓

✓

✓

✓

ご協力ありがとうございました。

